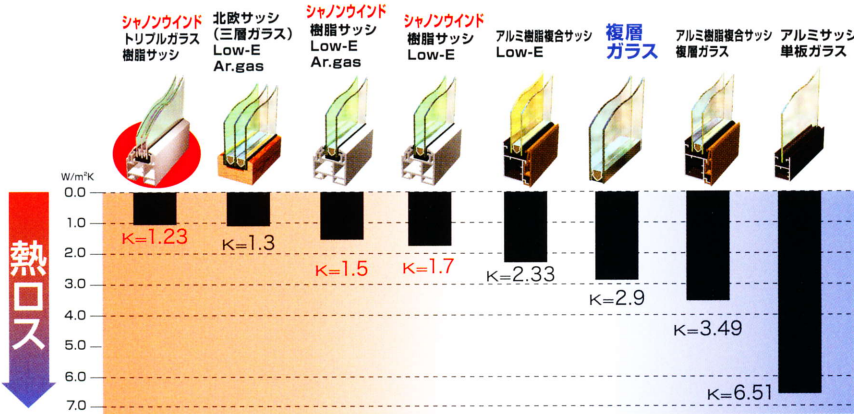


高い断熱性

住宅の断熱性を上げるには、壁と開口部の強化が効果的です。壁の場合には、断熱材の厚さを増したり、高性能な断熱材を用いることが一般的に行なわれていますが、開口部には壁ほどの気が配られていません。例えば、家の中で大きな面積を占めるサッシの性能が低いと、いくら断熱材を強化しても、サッシから熱がどんどん逃げてしまいます。したがって、家の高性能化を求めるのであれば、サッシも高性能なものを使わなければならないのです。

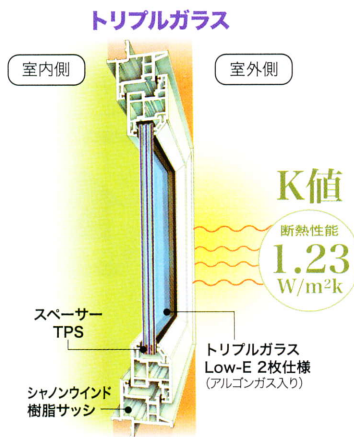
■ サッシの熱貫流率比較：K値



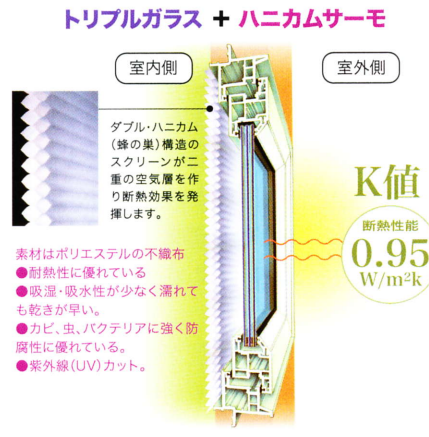
※熱貫流率：K値とは？ 室内外温度差が1℃、1時間あたり壁から逃げる熱量を表します。(熱ロス) 数値が小さいほど、断熱性能は高まります。

サッシの断熱性能は用いられている素材によって大きく変わります。これまで国内では木製サッシが最も高い断熱性能を有すると言われていましたが、左の比較図でお分かりのように、株式会社エクセルシャノンは従来品(当社)を大きく上回る性能値を有するトリプルシャノンの開発に成功しました。

■ 高性能住宅のスタンダード「トリプルシャノン」



K値=1.23W/m²k



K値=0.95W/m²k

※断熱レール付き
※本データはセイキ販売(株)製ハニカムサーモスクリーンを使用した場合のシミュレーション値です。

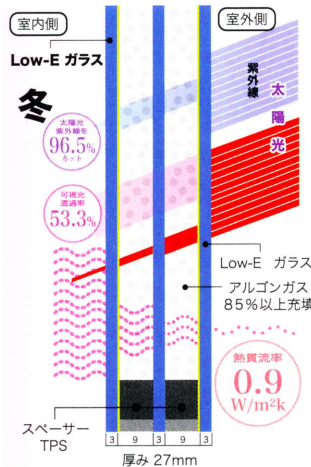
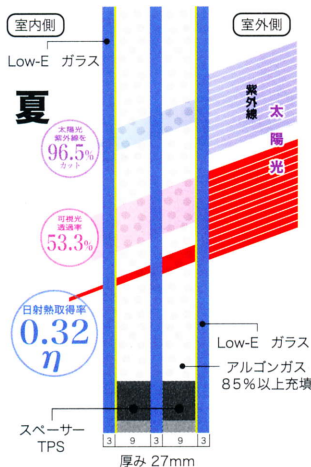
樹脂製フレーム+三層ガラスによって、従来の弊社複層ガラスLow-E Ar.gasが有していたK値=1.5W/m²kを上回るK値=1.23W/m²kを実現しました。セイキ販売(株)製のハニカムサーモを併用すればK値は0.95W/m²kまで！無暖房住宅の可能性を大きく広げます。

■ 使用上の注意 ■

カーテンおよびハニカムサーモスクリーン等は必ずガラス面から100mm以上離してご使用ください。熱割れの原因となる可能性があります。

■ トリプルシャノンの構造

トリプルガラスLow-Eの2枚仕様 (アルゴンガス入り)



室外側および室内側ガラスにはLow-Eガラスを使用し、夏には日射熱を抑えるとともに紫外線を防ぎ、冬には室内の暖房熱が逃げるのを防ぎます。ガラス間には熱伝導率が低いアルゴンガスが封入されています。

※本データは日本板硝子(株)製Low-Eガラススーパーグリーン色(レイボークリア色)を使用した場合のシミュレーション値です。アルゴンガス充填率は85%にて計算しました。